

# 2024 事業案内



一般社団法人

経済同友会インターンシップ推進協会

# 協会概要

## 経済同友会インターンシップ推進協会とは

望ましい産学連携教育を実践する観点から、大学・高専の正課授業として教育効果の高い「経済同友会インターンシップ」を主催している一般社団法人です。当協会の趣旨に賛同する経済同友会会員企業の有志と大学・国立高専機構が会員となっています。

実習にあたり、会員の意向をベースに適切なマッチングを行って学生の成長を後押ししています。また、実習に関する成果報告会や会員による交流会を開催することで、会員相互の成果の共有と連携を行い、次世代人材の育成に寄与しています。

### 名 称

一般社団法人経済同友会インターンシップ推進協会



(URL : <https://www.doyukai-internship.or.jp/>)

### 設 立

2019年4月1日

### 所在地

〒100-0005

東京都千代田区丸の内1-4-6 日本工業倶楽部別館5階 経済同友会事務局内

E-mail : [kyokai@doyukai-internship.or.jp](mailto:kyokai@doyukai-internship.or.jp)

### 代表者

代表理事 横尾 敬介

### 目的と事業内容

望ましい産学連携教育の実践の観点から教育効果の高いインターンシップを推進することにより、次世代人材の育成に寄与し、もってわが国の経済社会の発展に資することを目的として、以下に掲げる事業を実施。

- (1) 学生と企業を適切にマッチングするための情報の収集及び提供
- (2) 会員・経済同友会関係者、学生及びインターンシップOBOGによる交流会の運営
- (3) インターンシップの推進、調整、実態把握及び連携協力に関する活動

### 入会金

20万円 ※正会員のみ

### 年会費

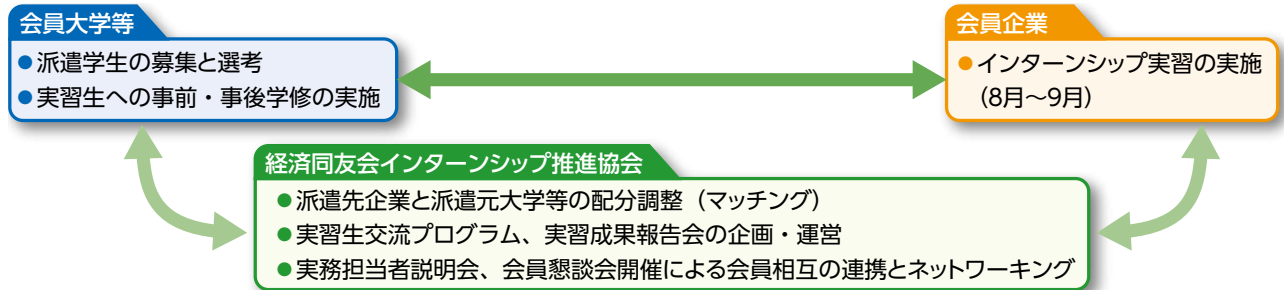
正会員 40万円

※大学・高専は派遣学生数6人まで同額。7人目から別途1人2万円追加。

準会員 5万円

# インターンシップの概要

会員大学等、会員企業と経済同友会インターンシップ推進協会の役割は次のとおりです。



## 望ましい枠組み

### 1 対象は大学1・2年生／高専本科4年生・専攻科1年生

早い時期から学生が実社会で学び、気づきを得ることでキャリア意識を涵養し、以後の学修やキャリア形成に活かします。

### 2 単位認定を行い、正課教育の一環として位置づけ

大学・高専では、教員がプログラム内容に関与する正課授業として位置づけられ、意欲ある学生を募集・選考して実習先へ派遣します。実習生への事前・事後学修を含めた教育指導により学生の成長を促します。

### 3 実習期間は2週間以上

教育効果の高いインターンシップ体験のため、おおむね2週間以上の実習期間が確保されています。

### 4 実習生受入れ先企業が交通費・宿泊費を支給

学生の経済的負担に配慮し、実習先までの交通費と実習期間中の宿泊費は受入れ先企業が負担します。

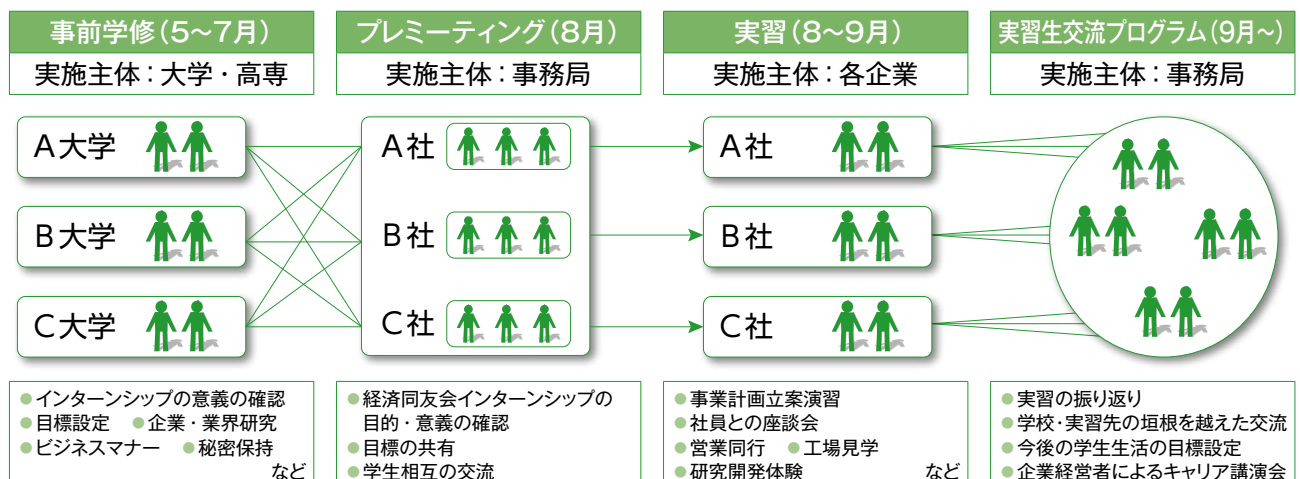
## 正会員企業・大学等数と実習生数の推移（実績値）

|       | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 企業    | 24社    | 24社    | 23社    | 23社    | 28社    |
| 大学・高専 | 14校    | 18校    | 19校    | 19校    | 19校    |
| 学生    | 123名   | 61名    | 111名   | 152名   | 179名   |

# インターンシップ実施の流れ

※各企業、大学、高専の事情により詳細は異なる

|     | 企業                                                   | 大学・高専                                          | 学生                 |
|-----|------------------------------------------------------|------------------------------------------------|--------------------|
| 11月 |                                                      | 次年度の夏季休業期間調査                                   |                    |
| 12月 | 【事務局主催】実務担当者説明会（方針説明）                                |                                                |                    |
| 1月  | 【事務局主催】次年度インターンシップの参加意向調査                            |                                                |                    |
| 2月  |                                                      |                                                |                    |
| 3月  | 【事務局主催】企業及び大学・高専のマッチング枠確定・通知                         |                                                |                    |
| 4月  | 大学・高専からマッチング企業へ<br>コンタクト開始                           | 学生募集・告知                                        | 学生応募・選考            |
| 5月  | インターンシップ<br>プログラムの詳細決定<br>➡実習に関する事前課題など<br>を大学・高専へ提示 | ●学生募集～学生選考<br>●実習生名簿を受入企業と事務局<br>局へ提出          |                    |
| 6月  | ➡実習プログラムを事務局へ<br>提出                                  | 事前学修<br>インターンシップ参加の意義、目標設定、企業・業界研究、ビジネス<br>マナー |                    |
| 7月  | 企業と大学・高専の覚書取り交わし                                     |                                                |                    |
| 8月  |                                                      |                                                | 【事務局主催】実習生プレミーティング |
|     | 企業でのインターンシップ実習に学生が参加<br>大学・高専の教職員は、派遣先企業へ訪問、成果報告会へ参加 |                                                |                    |
| 9月  |                                                      | 学内実習報告会                                        | 【事務局主催】交流プログラム①    |
| 10月 | 【事務局主催】会員勉強会                                         |                                                | 【事務局主催】交流プログラム②    |
|     |                                                      |                                                | 【事務局主催】OBOG交流会     |
| 11月 | 【事務局主催】実習成果報告会                                       |                                                |                    |



# 2023年度 経済同友会インターンシップ 学生・企業の声

## 学 生

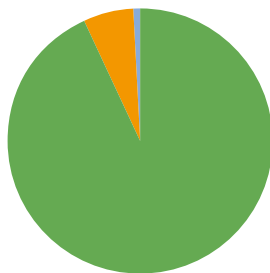
### ●2023年度実績

実習参加者数：179名（28社へ、18大学・高専機構から学生を派遣）

実習後アンケート回答者数：178名 回答率：99.4%

#### 経済同友会インターンシップに参加した全体的な満足度

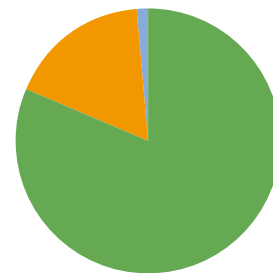
|         |     |
|---------|-----|
| 非常に満足した | 166 |
| やや満足した  | 11  |
| どちらでもない | 1   |
| 満足していない | 0   |



満足度：99.4%

#### 経済同友会インターンシップへの参加を通じて自分自身が成長したと実感できますか？

|          |     |
|----------|-----|
| 非常に実感できた | 145 |
| 実感できた    | 31  |
| どちらでもない  | 2   |
| 実感できなかった | 0   |



実感度：98.8%

## 企 業

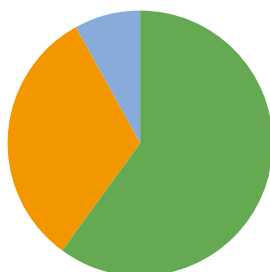
### ●2023年度実績

実習参加企業28社（18大学+1高専機構から179名の学生が派遣）

実習後アンケート回答社数：25社 回答率89.2%

#### 経済同友会インターンシップに参加した満足度

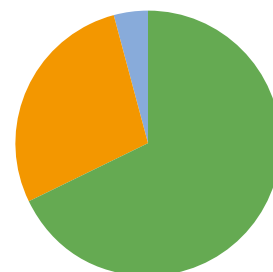
|         |    |
|---------|----|
| 非常に満足した | 15 |
| やや満足した  | 8  |
| どちらでもない | 2  |
| 満足していない | 0  |



満足度：92.0%

#### 参加学生に対する満足度

|         |    |
|---------|----|
| 非常に満足した | 17 |
| やや満足した  | 7  |
| どちらでもない | 1  |
| 満足していない | 0  |



満足度：96.0%

## 学生・企業の声

### 学生の声

- 企業、自分、キャリアのすべてにおいて、深く理解する機会をいただき、働くことの意義を身に染みて感じた。
- 普段関わり合えない仲間と頭を抱えて考える経験ができた。ビジネスの思考法を基に現象をとらえることは初めてで、うまくいかないことに葛藤を覚えたが、役員や社員の方から直接フィードバックをいただき、何度も話し合いをしたことで、考え方が成長したことを実感した。
- 大学1・2年生の時期にインターンシップを行うと、その後の学校生活や将来への考え方が必ず変わる。絶対参加すべき。
- 非常に貴重な機会であったが、参加するだけでは意味がなく、主体性をもってどんどん意見を発信していかなければならないと感じた。

### 企業の声

- 若手社員が未経験者を一から指導・育成する場をつくることができ、自社にとっても良い機会となった。
- 実習生が「自分から発信しないと個の活動に留まる。それが学生と社会人の違いだと分かった」とコメントしていたことが、強く印象に残った。
- 積極性、真面目さ、吸収力があり、伝えたことをすぐに実践していたことから、担当者一同、学生の多大な可能性に心を動かされた。
- こちらの指示なく学生同士で反省会を行うなど、成長意欲の高い学生が多く、当社の想像を超えたアウトプットが得られてとても参考になった。

# 2023年度 経済同友会インターンシップ実習事例

## 概要

2023年度は企業28社、18大学と国立高専機構、学生179名が経済同友会インターンシップに参加しました。企業はワークやディスカッション、現場体験や交流会などのプログラムを実施し、学生は実社会での就業体験から多くの学びや気づきを得ました（成長実感度98.8%）。当ページでは、2023年度に学生を受け入れた日本航空、リコー、ADEKAの活動とオイシックス・ラ・大地の実習に参加した学生の体験談を紹介します。

## 日本航空

航空業界や飛行機のオペレーションについて理解を深め、客室乗務員の訓練体験も行いながら、グループワークを通じてキャリアを考える機会を提供。

■実習場所 本社、羽田オペレーションセンター

■参加学生 6人

### ■プログラム

- ・航空業界・客室乗務職を知る
- ・地方から世界へ／世界から地方へ
- ・コンピテンシーとキャリアについて考える



### ■参加学生の声

- 客室乗務職はじめさまざまな部署の方からお話を伺い、飛行機を飛ばすために多くの職種の支えがあることを実感した。
- コンピテンシーの講義が最も印象的で、社会人として働く上で重要なことを学んだ。
- まずは行動、チャレンジすることで得られるものはたくさんあるので、最初の一步をためらわず、他の学生も経済同友会インターンシップにぜひ参加してほしい。

### ■企業担当者の声

- キャリアを意識し始めたばかりの大学1～2年の参加によって、企業側もあらためて「働くとは何か」「職種の魅力」について、捉える機会となった。Well-beingを高める取り組みをしている中、実習生と共に考えていくことで組織の活性化に向けたヒントを得た。
- 弊社はESG戦略の下、地方活性化にも取り組んでいるが、今回は「地域課題の解決」などを専攻している学生も多く、グループワークが活発に行われた。人選した大学にも感謝している。
- 学生の「早期のキャリア意識の醸成」に関与し、担当者自身が喜びややりがいを感じた。

## 学生体験談



実習先 **オイシックス・ラ・大地株式会社(2023年度)**

大学名 **京都橘大学 経済学部 経済学科3年 崎濱 圭人さん**

私はオイシックス・ラ・大地株式会社のインターンシップに参加しました。10日間の実習では、物流センターや取引先農業団体へ訪問し、そこで得た情報から「フードロス削減のビジネスモデル」の提案を行いました。

この経験から「社会課題はチャンス」であることや、異なる大学のメンバーと協働したことにより複眼的思考の重要性を学びました。また、大学で学んでいる経済理論と現実のギャップを感じ、その差を埋めるための学びを今後深めたいと考えています。

切磋琢磨した友人たちは現在も定期的に会うかけがえのない存在であり、実習経験を通して得た学びや価値観は私の財産です。

このような出会いと成長の機会を提供くださった皆様にはとても感謝しています。

## リコー

大学生向けプログラムと高専生向けプログラムを用意し、一人ひとりに合わせた手厚いインターンシップ実習を展開。

■実習場所 ①リコー本社、市村自然塾 ②沼津事業所

■参加学生 2人

■プログラム

- ・大学生対象：社会貢献プログラムの体験および「若者向けデジタル支援プログラム」の改善提案
- ・高専生対象：1日1度は出会っている「感熱紙技術を知るプログラム」の体験・実習



■参加学生の声

- オフィスでのデスクワークやリモートワーク、ボランティア活動などさまざまな活動に参加し、大学では学べない多くのことを学んだ。社員の方々にいろいろな話を聞かせていただき、働く意義や楽しさについて学ぶことができた。
- 最も印象に残ったプログラムは社内報告会。社会貢献活動の提案をしたが、これを通して働くことの責任を実感し、社会人になるための心構えを学んだ。
- 他の学生に伝えたいことは働き方が変化しているということ。学生は将来働く上で自分に合った働き方を考える必要があると思った。

■企業担当者の声

- 両プログラム共に、意欲のある学生を派遣いただいた。
- 学生は真摯で前向きな姿勢でプログラムに取り組んでいた。率直に質問し、臆することなく自身の意見を伝えることができていた。
- 若い方の新しい考えを知ることができ、職場の活性化にもつながった。派遣元の大学・高専とのつながりができたことにも満足している。

## ADEKA

鹿島工場で徹底した安全管理の下、充実したプログラムを実施。

■実習場所 鹿島工場

■参加学生 6人

■プログラム

- ・化学品技術課・食品技術課の仕事を知る
- ・ラボ品、実機品の違いを知る
- ・油種による物性差異を知る



■参加学生の声

- 学内では見られない工業規模の機械に実際に触れ、これまで学んできたことの意味を視覚的に理解できた。また、他の大学の人との交流を通じて、今後の学修や大学院進学など、自身の将来について考えることができた。
- 最も印象に残った実習プログラムは化学品の蒸留。蒸留をラボレベルで行い、分析し、純度が高くなっていることを数値で実際に確認できた。その他の製造工程も体験することができ、感動した。
- 想像していた以上に今、勉強をしている内容が企業でも活かされていることが分かった。インターンシップに参加することで、企業や業界に関する知識だけでなく、人脈や質問力、発表スキルなど期待以上のものを得ることができた。

■企業担当者の声

- 学生はとても意欲的に取り組み、成果発表も満足のいくレベルであった。メーカーの生産活動に対する学生の理解も得られたと考えている。

# 実施に関するFAQ

## FAQ【企業】

**Q1** 学生の受け入れに際し、特定の学校を指定することはできますか？

**A** 特定の学校を指定することはできません。  
当協会は、特定の企業に特定の学校の学生が偏らないよう留意して、マッチングを行っています。

**Q2** 一定水準以上の知識・スキル（語学力・ITスキル・特定の選考分野に関する知識など）を有する学生に限って受け入れることは可能ですか？

**A** 可能です。ただし、大学1・2年生又は高専本科4年生・専攻科1年生を対象とするプログラムであることにご留意いただき、過度に高度な知識・スキルを求めることはお控えください。

**Q3** 実習の一部または全部について、自社が独自に行うインターンシップと合同で実施することはできますか？

**A** 実施できます。ただし、所定の実習期間（概ね2週間以上）が確保できているかという点と、正課科目で単位が認定される教育プログラムとして相応しい内容を備えているかという点にご留意ください。

**Q4** 部門ごとに対象となる学生を変えて、複数の実習プログラムを設けて、学生を受け入れることはできますか？

**A** 所定の実習期間（概ね2週間以上）が確保されていれば、同一企業内でも、複数の実習プログラムを設定していただくのは問題ありません。

**Q5** 会員となっている企業だけでなく、グループ会社でも実習を実施しても良いですか？

**A** 会員企業の実習の一部として受け入れ可能です。ただし覚書などは会員企業が大学等と締結していただきます。

## FAQ【大学／高専等】

**Q1** 派遣する際に特定の企業を指定することはできますか？

**A** 派遣先企業の指定はできません。  
当協会では、特定の学校の学生が特定の企業に偏らないよう留意してマッチングを行っています。

**Q2** 6名を超えて学生を派遣する場合、人数の指定は可能ですか？

**A** ご希望人数をお示ししていただくことは可能ですが、必ずしもご希望の人数枠分をマッチングできるわけではありません。

**Q3** 大学3年生を派遣することは可能でしょうか？

**A** 大学・高専の低学年を対象としていますので3年生を派遣することはできません。

**Q4** インターンシップに参加するにあたり、単位認定を必ず行う必要がありますか？

**A** 経済同友会インターンシップは、正課教育の一環として行っているため、実習生に対しては、各大学・高専の基準に則り、単位を認定していただくことが必須です。なお、単位数の指定はありません。

**Q5** 大学・高専が実施する事前・事後学修について、日数や内容の条件・制約はありますか？

**A** 大学・高専で工夫を凝らして自由に実施していただいていますので、条件や制約等はありません。

# 入会のご案内

## 経済同友会インターンシップの主旨に賛同され、ご入会を検討される企業・大学の方に

- 当協会には、企業・大学・高専いずれも法人会員として入会いただいております。
  - 企業のご入会は、公益社団法人経済同友会会員の所属企業に限らせていただきます。
  - 入会金20万円 ※正会員のみ
  - 年会費40万円
- 企業は、一律40万円です。大学・高専は、40万円に学生6人分の派遣費を含んでおり、7人目からは、別途、1人2万円をいただきます。

### ■企業の方

研修プログラム内容などについて実習生派遣校の教職員との連携・協力・調整を行うとともに、学生の宿泊費・交通費などの費用をご負担くださり、おおむね2週間以上の期間、学生を受け入れていただける企業にご入会をお願いしております。

### ■大学の方

大学・高専の正課（授業）として単位を付与して実施するもので、学生の受け入れのための宿泊費・交通費などの費用については企業にご負担いただいております、大学・学生の負担はありません。

自ら参加を希望する意欲・意識の高い学生を選考して、事前・事後の学修を実施、おおむね2週間以上の期間にわたる研修プログラムなどについて、派遣先企業との連携・協力・調整を十分に行っていただける大学にご入会をお願いしております。

## 入会のメリット

### ■企業の方

- 望ましい産学連携教育として、会員大学・高専から高い支持を得ているインターンシップ事業に参画いただくことで、企業として次世代人材の育成に貢献することができます。
- 全国の特徴ある大学・高専から選考された意欲的な学生を対象に比較的長期の実習を行うことで、企業や業界に対する理解と認知度の向上が得られ、将来の採用につながる効果も期待できます。
- 学生のピュアな感覚・斬新なアイデアに接することにより、指導を担当する社員の育成にも寄与します。
- 実習成果報告会など会員相互の交流機会により、企業の人事・採用担当者と大学・高専のキャリア教育担当者のネットワーク構築につながります。

### ■大学の方

- 日本を代表する企業のインターンシッププログラムに参加することができます。
- 学生の仕事についての理解が深まり、自らの職業適性を見極めることができ、有意義な職業選択につながります。
- 実習先までの交通費と実習期間中の宿泊費は受け入れ企業にご負担いただくことにより、学生は安心してインターンシップ実習に取り組むことができます。

# 大学院生修士課程1年生の インターンシップ「M1エンカレ」

大学院生が企業での就業体験を通じて、研究への意欲やキャリア観を醸成する産学連携教育の一環として、2024年度より「M1エンカレ」インターンシップを開始します。

実習を通して大学院生と企業双方の理解が深まれば、就職につながることも期待できるインターンシップです。

※エンカレ：encourage（奨励）とintercollege（大学間交流）を結び付けた造語

## 参加資格

経済同友会インターンシップ推進協会の正会員で、学部対象インターンシップに参加している会員企業・大学

## 対象学生

参加を希望する会員大学の大学院修士課程1年生

## M1エンカレのめざすところ

- 企業は学生の専門的な志向と企業ニーズを調和させ、戦略的な人材開発に活用する。
- 大学は学生に実践経験を積める場・機会を提供して、社会に必要とされる人材育成に貢献する。
- 大学院生はM1エンカレに参加することで、自身の研究視野を広げ、社会実装を意識した研究企画を立案する能力を身につける。

## M1エンカレの概要

- ①**運営体制**：大学院は正課科目として位置づけ、全学的に実施できる運営体制を構築（研究科ごとの参加も可とします）。
- ②**プログラム**：企業は参加学生のコンピテンシーを育成し、研究と企業の業務体験を結び付ける、より実践的なプログラムを提供する。
- ③**期間**：学生の夏季休暇期間中に4週間以上。当面は最小実習期間2週間（10営業日）を予定しています。
- ④**参加費**：参加費は20万円（受け入れ・派遣の実績に応じて請求）  
※企業には実習先までの交通費・実習期間中の宿泊費をご負担いただきます。  
※大学は参加費の中で3人まで派遣でき、4人目から別途1人2万円を追加いただきます。

# 役員紹介



会長

新浪 剛史

経済同友会  
代表幹事

## 望ましい枠組みとしての インターンシップが社会を変える

グローバル化やデジタル化の進展により、世界経済が目まぐるしく変化するなか、学生へのキャリア教育の必要性はますます高まっています。

大学での学びと企業や社会での学びを連続的に捉えたうえで、世界で活躍する人材を育成するために、経済同友会は「インターンシップの強化・充実」を提言しました。

経済同友会インターンシップ推進協会は、この提言を具現化するために設立され、趣旨に賛同する会員企業・大学等により、望ましい枠組みとしてのインターンシップが展開されています。大学・高専は正課として単位を付与し、企業は充実した現場指導とともに費用を負担するなどして学生の成長を後押ししています。

次世代人材の育成を通じた社会貢献の取組みに共感する多くの皆様にご入会を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。



代表理事

横尾 敬介

産業革新投資機構  
代表取締役社長 CEO

## 企業という実社会で学ぶ リアリティが学生を成長させる

これからの混沌とした時代を生きていく学生たちにとって、教育効果の高いインターンシップは一層重要性を増しており、企業という実社会で学ぶリアリティは、教育機関が提供できない貴重な体験です。

企業では、さまざまな価値観を持つ人々がその能力に応じて役割を担い、協力し合うことで、全体の成果に結びつけています。

当協会のインターンシップは、意識の高い学生たちが早い時期からこうした人々に学ぶ機会を提供しており、多くの“気づき”を得ることができます。

教職員の皆様には、貴重で得がたい体験を経て、キャリア・デザインを描きながら努力する学生たちの成長支援をお願いいたします。

当協会は、学生時代にしっかり学び、卒業後に社会で活躍する若者たちをサポートして参りますので、志を同じくする皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

専務理事・事務局長

穴戸 尚子

経済同友会 調査役

理 事

天羽 稔

TGA 取締役会長 元デュポン 名誉会長

大久保 伸一

TOPPANホールディングス 副社長執行役員CHRO

尾崎 由紀子

野村ホールディングス 執行役員CHRO 兼 健康経営推進責任者(CHO)

高祖 敏明

上智大学 名誉教授

矢口 悦子

東洋大学 学長

監 事

小野 傑

西村あさひ法律事務所・外国共同 事業顧問

入澤 崇

龍谷大学 学長



一般社団法人

経済同友会インターンシップ推進協会

〒100-0005

東京都千代田区丸の内1-4-6 日本工業倶楽部別館5階 経済同友会事務局内

E-mail : [kyokai@doyukai-internship.or.jp](mailto:kyokai@doyukai-internship.or.jp)

<https://www.doyukai-internship.or.jp>



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用

2024.07 作成